

- 表現及び鑑賞の活動を通して、感性や創造性を豊かにし、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育む。
- 実際に見る・聴く・触れるなどの身体感覚を働かせて学習する活動とICTを活用する活動を、学習のねらいに応じて教師が見極めて、適切かつ効果的に授業で扱う。

音楽科におけるICT活用についての
参考資料（文部科学省）



小学校

中学校・高等学校

表現及び鑑賞の学習過程におけるICT活用例

A 表現【歌唱・器楽】

自分たちの演奏を録音・録画する。



思いや意図を表現できているか、課題を客観的に確認する。



前回のデータと比較して、成長を自覚し、課題を明確にする。

録音・録画機能の活用

A 表現【音楽づくり・創作】

自分が表したいイメージと音楽を形づくっている要素と関わらせて、課題や条件に沿って音を選択して創作する。



実際に演奏をしなくても様々な楽器の音色や旋律等を替えて音楽で表現できるよさがある。何度も視聴しながら試行錯誤し、自分にとって価値のある音楽を創作する。

何度も視聴しながら試行錯誤

B 鑑賞

主旋律を演奏する楽器の演奏映像や色付けされた楽譜を見ながら聴く。



楽譜と音楽を比べながら、必要に応じて再生や停止をして自分のペースで確認することで、曲想と音楽の構造との関わりについて理解していく。



自分で選択した場面を再生

学習過程におけるICT活用例 【鑑賞領域】

鑑賞の活動を行う際、1人1台端末を使って鑑賞曲を場面ごとに分けて聴いたり、曲全体を通して聴いたりするなど、工夫した聴き方が可能になる。

その際、必要に応じて端末を操作して、音楽を再生したり停止させたりしながら、意図的に聴きたい部分を繰り返して聴くことができる。

そのため、自分がイメージしたことや知覚・感受したことと音楽を形づくっている要素との関連について考えながら、自分が納得できるまで聴いて確認することができるよさがある。

